

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ぬくぬく（ばんな・こった）				公表日	2025年3月13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動の部屋と学習の部屋を分ける事ができる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基準に沿った適切な人員配置で支援を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・室内はバリアフリー化がされている。	・事業所が2階にある為階段があるが、両サイドに手すりが設置してある。利用児童に応じて支援をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日、掃除と除菌作業を行っている。また、掃除の漏れが無いように、ホワイトボードで進捗状況を確認し合う様になっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・指導訓練室を区切る事ができ、また、必要に応じて事務所の相談室での対応も可能となっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・月に1回以上の支援員全員参加型の研修会を開催している。 ・常勤支援員の支援会議は毎週開催している。	・支援員全員からの発言の機会を増やしていく。 ・参加出来なかった支援員に情報を共有する（議事録）。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者による評価を毎年依頼し、集計と検討を行っている。	・保護者からの評価やご意見を元に、業務改善に努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・支援員の意見は積極的に取り入れる環境を整えている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・現在行っていない。事業規模や必要性に応じ今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・月に1回以上の支援員全員参加型の大学の講師による研修会を開催している。	・外部研修にも参加をし、その内容を支援員に伝えている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムはホームページにて公表をしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・フェイスシートやアセスメントシートの記入を保護者に依頼している。 ・面談も随時行っている。	・シートの記入を元に、より詳しく児童の状況を聴き取りしていく。また、送迎時の保護者との会話を大切な場と考えている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・支援会議を開催し、常勤支援員全員で児童の様子を共有する事で、計画に反映できるようにしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画を常勤支援員全員で考え、日々の支援に共通理解を持って対応をしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・独自のアセスメントシートを標準化している。	・日々の記録や、支援員から子どもの様子や情報を収集し計画に反映できる様にする。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・当事業所の活動に参加をする事で、家族支援や移行支援につながる活動内容を考案している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・常勤支援員で支援会議を開催し、活動プログラムを企画している。	・平日は活動内容を固定しているため、学校休業日の活動内容を常勤支援員で話し合い、企画している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・季節感のある活動企画の立案を行っている。	・日頃の成果を発揮できるスポーツイベントや、様々な経験ができる企画の立案を行う。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・集団活動に馴染めない場合は、個別活動で対応している。また、集団活動に馴染めるような声かけや支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・その日の業務内容は支援員と確認をしている。また、週の始めには全体ミーティングを行っている。	・タイムスケジュールを作成し、支援員全員で確認できるようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・終業前にミーティングを開き、その日の振り返りや伝達事項の共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・支援員が偏ることなく、毎日記録をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・6ヶ月ごとにモニタリングを行い、目標の達成状況に応じて、適宜計画の変更を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・様々な活動プログラムを曜日毎に設けている。また、子どもが主体となる企画や、ボランティアの受け入れ、民間のサークルとの交流も行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・その日に出来る活動を示し、子ども達が自分で選択をし、自己決定の練習ができる活動を取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・管理者や児童発達支援管理責任者が担当者会議に参加をしている。また、常勤支援員も必要に応じて参加をしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			・連絡や要請があれば、連携を取れる体制を整えておく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・時間割を毎週入手している。必要に応じて学校へ外出向き、担任の先生や教頭先生との情報共有を場を設けている。	・お迎え時に、担任の先生との情報交換を行う。また、担任の先生の施設訪問も受け入れをしている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・現在は行っていないが、新入生などの利用に応じて情報共有と相互理解に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			・現在、対象児童がいなかったため未対応。必要に応じて情報提供等の体制を整える。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			・現在は専門機関との連携がまだ取れていないが、今後研修等への参加を検討している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・近隣の公園で、一緒にドッジボール等の公園遊びを楽しんでいる。	・他の機関が企画するポッチャ大会やスポーツイベントへの参加を検討している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・西サポネットから情報の入手を行っている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時に保護者との会話を大切にしよう努めている。	・周年祭など、保護者の参加できる企画を考えていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・臨床心理士資格を持つ支援員による対応を必要に応じて行っている。	・痲痺などの問題行動について相談があった時は、正の強化のやり方について共に考えている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に必要事項の説明を行っている。	・分かりやすい説明や書面の配布に留意する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・アセスメントシートの配布や、記入の仕方を説明している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・計画内容について、不明な点がないか確認をするようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・臨床心理士資格を持つ支援員と管理者による対応を、必要に応じて行っている。	・どの支援員も保護者との良好な関係作りができる様に、スキル向上の研修会を事業所内で行っている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	・周年祭や保護者参加型の企画を、学校休業日に行っている。	・保護者会や、保護者同士が交流を持てる場をより多く企画していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	・子どもや保護者からの苦情は管理職で対応をしている。また支、援員間で情報の共有をし体制を整えている。	・子どもが発言しやすい環境を整える。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	・定期的にブログの更新を行い、活動内容を伝えている。	・ブログの更新により日々の活動が分かり、安心して過ごせる環境を知ってもらう。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	・個人情報の書類は鍵付書庫で管理している。	
	44	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・個別に分かりやすく説明するようにしている。また、SNSにて質問や連絡を取れやすいようにしている。	・口頭だけではなく、書面での情報伝達やSNSの活用により気軽に相談ができる様にしていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・管理者が地域の清掃活動に月に1回参加している。	・今後、地域に開かれた施設になるように、企画を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・マニュアルは支援員がすぐ確認できるように事務所の玄関に設置している。	・契約時や避難訓練の様子をブログにて発信することで、保護者に周知をしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	・業務継続計画を作成し、非難訓練はマニュアルに沿って毎年2回（3月、8月）に行っている。また、様子をブログに掲載している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	・服薬や病歴に関して、事前に情報を確認するようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・事前にアレルギー、食べられない物を保護者から把握している。	・アレルギーの研修会に参加をし、支援員の研修会で伝えた。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・安全計画を作成し、年に1回の研修と支援員への周知を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・ホームページやブログにて、子どもの安全確保について周知できる様にする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・ヒヤリハットを研修会で事例検討をし、再発防止に向け対応をしている。	・研修会で事例検討を行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・虐待防止・身体拘束委員会を定期的に開催し、職員全体の研修会を行っている。	・身体拘束や虐待については研修会を繰り返し行い、支援員の意識を高めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	・契約時に、身体拘束に関する説明を行い同意書を記入して頂いている。また、身体拘束を考える研修を開催。		